

一 耆闍崛山の事

仰せに云はく、耆闍崛山とは靈鷲山なり。靈とは三世の諸仏の心法なり。必ず此の山に仏心を留め玉ふ。鷲とは鳥なり。此の山の南に当たって尸陀林と云ふ林あり、死人を捨つる所なり。鷲、此の屍を取り食らふて此の山に住むなり。さて靈鷲山とは云ふなり。所詮今經の心は迷悟一体と談ず。靈と云ふは法華經なり。三世の諸仏の心法にして悟りなり。鷲と云ふは畜生にして迷ひなり。迷悟不二と開く中道即法性の山なり。耆闍崛山中と云ふは、迷悟不二・三諦一諦・中道第一義空の内証なり。されば法華經を行ずる日蓮が弟子・檀那等の住所は、如何なる山野なりとも靈鷲山なり。行者豈釈迦仏に非ずや。日本国は耆闍崛山、日蓮等の類は釈迦如来なるべし。総じて一乘南無妙法蓮華經を修行せん処は、如何なる所なりとも常寂光の都・靈鷲山なるべし。此の耆闍崛山中とは煩惱の山なり。仏菩薩等は菩提の果なり。煩惱の山の中にして法華經を三世の諸仏説き玉へり。諸仏は法性の依地、衆生は無明の依地なり。此の山を寿量品にては本有の靈山と説かれたり。本有の靈山とは此の娑婆世界なり。中にも日本国なり。法華經の本国土妙娑婆世界なり。本門寿量品の未曾有の大曼荼羅建立の在所なり。瑜伽論に云はく「東方に小国有り、其の中には唯大乘の種姓のみ有り」と。大乘の種姓とは法華經なり。法華經を下種として成仏すべしと云ふ事なり。所謂南無妙法蓮華經なり。小国とは日本国なり云云。